

しゆしようぎ だいよんしょう ほつがんりしよう
修証義 第四章 発願利生

菩提心を発すというは、己れ未だ度らざる
ほ だいしん おこ おの いま わた

前に一切衆生を度さんと発願し営むなり、
さき いっさいしゆじょう わた ほつがん いとな

設い在家にもあれ、設い出家にもあれ、或
たと ざいけ たと しゅつけ あるい

は天上にもあれ、或は人間にもあれ、苦に
てんじょう あるい にんげん く

ありというとも楽にありというとも、早く自
らく はや じ

未得度先度他の心を発すべし。其形陋し
みとくどせん ど た ころ おこ そのかたちい

というとも、此心を発せば、己に一切衆生
このころ おこ オデ いっさいしゆじょう

の導師なり、設い七歳の女流なりとも即ち
どうし たと しちさい によりゆう すなわ

四衆の導師なり、衆生の慈父なり、男女
ししゆ どうし しゆじょう じ ふ なんによ

を論ずること勿れ、此れ仏道極妙の法則
ろん なか こ ぶつどうごくみよう ほうそく

なり、若し菩提心を発して後、六趣四生
も ほ だいしん おこ のち ろくしゆ ししろう

に輪転すと雖も、其輪転の因縁皆菩提の
りんてん いえど そのりんてん いんねんみな ほ だい

行願ぎようがんとなるなり、然しかあれば従来じゅうらいの光陰こういんは

設たとい空むなしく過すごすといふとも、今生こんじようの未いまだ過すぎ

ざる際あいだに急いそぎて発願ほつがんすべし、設たとい仏ほとけに成な

るべき功徳くどくじゆく熟えんまんして円満えんまんすべしといふとも、尚な

お廻めぐらして衆生しゆじようの成仏じようぶつ得道とくどうに回向えこうするな

り、或あるいは無量劫むりようごう行おこないて衆生しゆじようを先さきに度わたして

自みずからは終ついに仏ほとけに成ならず、但ただし衆生しゆじようを度わた

し衆生しゆじようを利益りやくするもあり。衆生しゆじようを利益りやくす

というは四枚しまいの般若はんによあり、一者ひとつ布施ふせ、二

者ふたつ愛語あいご、三者みつ利行りぎよう、四者よつ同事どうじ、是これ即すなわ

ち薩埵さつたの行願ぎようがんなり、其その布施ふせというは貪むさぼらざ

るなり、我物わがものに非あらざれども布施ふせを障さえざる

道理どうりあり、其物そのものの軽かるきを嫌きらわず、其功そのこうの

實じつなるべきなり、然しかあれば即すなわち一句一偈いっくいちげの

法ほうをも布施ふせすべし、此し生しょう佗た生しょうの善ぜん種しゆとなる、

一いっ錢せん一いっ草そうの財たからをも布施ふせすべし、此し世せ佗た世せ

の善ぜん根こんを兆きざす、法ほうも財たからなるべし、財たからも法ほうな

るべし、但ただ彼かれが報ほう謝しゃを貪むさぼらず自みからが力ちからを

頒わかつなり、舟ふねを置おき橋はしを渡わたすも布施ふせの檀だん

度どなり、治ち生しょう産さん業ぎよう固もとより布ふ施せに非あらざるこ

と無なし。愛あい語ごというは、衆しゆ生じようを見みるに、先ま

ず慈じ愛あいの心こころを発おこし、顧こ愛あいの言ごん語ごを施ほごすな

り、慈じ念ねん衆しゆ生じよう猶おも如たぐ赤た子くわの懐たくわいを貯たくわえて言ごん

語ごするは愛あい語ごなり、徳とくあるは讚ほむべし、徳とく

なきは憐あわれむべし、怨おん敵てきを降ごう伏ぶくし、君くん子しを

和わ睦ぼくならしむること愛あい語ごを根こん本ぼんとするなり、

面むかいて愛語あいごを聞きくは面おもてを喜よろこばしめ、心こころを

楽たのしくす、面むかわずして愛語あいごを聞きくは肝きもに

銘めいじ魂たましいに銘めいず、愛語あいご能よく廻かいてん天ちからの力ちからあるこ

とを学がくすりぎようべききなり、利行きせんといしゆうは貴賤しゆの衆しゆ

生じように於おきて利益りやくの善巧ぜんぎようを廻めぐらすきゆうなり、窮きゆう

亀きを見病雀みびようじゃくを見みしとき、彼かれが報謝ほうしゃを求もとめ

ず、唯単ただひとえに利行りぎように催もよおさるぐるにんなり、愚人おも謂も

わくは利他りたを先さきとせば自みずからが利省りはぶかれぬべ

しと、爾しかには非あらざるりぎようなり。利行いっぼうは一法いっぼうなり、

普あまねく自他じたを利りするどうじなり。同事どうじといふうは不

違いなり、自じにも不違ふいなり、他たも不違ふいなり、

譬たとえば人にんげん間の如にょらい来にんげんは人どう間に同ごとぜるが如ごとし、

他たをして自じに同どうぜしめて後のちに自じをして他たに

他たをして自じに同どうぜしめて後のちに自じをして他たに

同どうぜしむる道理どうりあるべし、自じたは時ときに随したがう

て無窮むきゆうなり、海うみの水みずを辞じせざるは同事どうじなり。

是この故ゆえに能よく水みず聚あつりて海うみとなるなり。大凡おおよそ

菩提ぼだい心しんの行願ぎやうには是かくの如ごとく道理どうり静しずかに

思惟しゆいすべし、卒爾そつじにすること勿なかれ、济度さいど攝

受じゆに一切いっさい衆生しゆじやう皆みな化けを被こうぶらん功德くどくを礼らい

拜はい恭敬くぎやうすべし。

年 月 日

氏名

謹写